

タイトル：英簿テンプレート使用の時は英文のみ、日本語テンプレート使用の時は日本語・英語並記

使用したビームラインの名前と番号

BL-15A2/202XG123

PF アクティビティレポート：ユーザーレポートについて PF Activity Report: Users' Report

筑波太郎^{1,*}, 桜咲² ← 著者名は姓名とも綴る

¹ 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所, 〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1

² 東西大学, 〒123-4567 東京都東西市 1-1-1

Taro TSUKUBA^{1,*} and Saki SAKURA²

¹ Institute of Materials Structure Science, High Energy Accelerator Research Organization, 1-1 Oho, Tsukuba, Ibaraki 305-0801, Japan

² University of Tozai, 1-1-1 Tozai, Tokyo 123-4567, Japan

アブストラクトはオプションとします。レポートが長い場合等、必要に応じてこの部分に御記入ください。必要のない場合は消去して下さい。

1 はじめに

本テンプレートの赤枠、赤字は消してお使いください。フォント、文字サイズ、行間隔、余白の広さ、カラムの幅など、テンプレートの体裁は変更しないでください。

セクション建ては著者の裁量でお決めください（短いレポートの場合は、セクションを建てなくても結構です）。句読点は「，。」を推奨しますが、「、。」や「．」でも結構です。ただし、混在使用は避けて下さい。

レポートは、最長 6 ページです。図表の数は、ページ制限内であれば自由に選択できます。

2 実験

PF アクティビティレポートの著作権は、レポート全体としてはKEKが、各記事単位では著者本人が所有いたします。

本レポートに、投稿論文の図表をそのまま掲載する場合は、論文出版元の著作権に留意して、適切な使用許諾を取ってください。著作権に関連して問題が起こる可能性がある場合には、図表なしでレポートを作成していただいても構いません。

3 結果および考察

本レポートの提出が「実験終了届」の代わりになりますので、実験課題の有効期間中あるいはその後、一課題あたり少なくとも一報のユーザーレポートの提出が必要となります。

ユーザーレポートは年間を通して、いつでも投稿可能です。投稿の準備が整い次第、速やかご投稿下さい。なお、年度毎にまとめるために毎年一回の締め切りを設定しています。締め切り後に投稿されたレポートは、自動的に次の号に掲載されます。

4 まとめ

皆様のレポートは PF の研究活動を計る重要な物差しであり、PF の支援ひいては皆様の研究環境の改

善にも繋がる大切なものですので、この機会に是非ともご寄稿をよろしくお願いします。



図 1：これは PF のロゴマークです。

図はカラー推奨、EPS 形式の図を使用する場合はフォントを埋め込むか、文字をアウトライン化して文字化けしないように注意する。

謝辞

謝辞の項目はオプションとしますので必要がなければ消去下さい [2]。

参考文献

- [1] T. Tsukuba *et al.*, PF Highlights 2017, 12 (202X).
- [2] I. Oho and S. Sakura, *Phys. Rev. Lett.* **120**, 10101 (202Y).

成果

- 1. 受賞、知的財産権、学会発表等、特筆すべきものがあればご記入下さい。
- 2. 本成果項目はオプションとしますので必要がなければ消去下さい。

* abcd-efg@zzz.jp

連絡担当著者の電子メールアドレス

注意事項

- 1) pdf 変換の際にはフォントの埋め込みを行ってください。
- 2) ファイル名には日本語は使用せず、スペースも入れないでください。